

## 第5回 身近な京都を知る歴史散策（洛北 松ヶ崎・修学院・一乗寺）

### 洛北を巡る③

主催：特定非営利活動法人平安京調査会

<https://heiankyo-tyousakai.com>

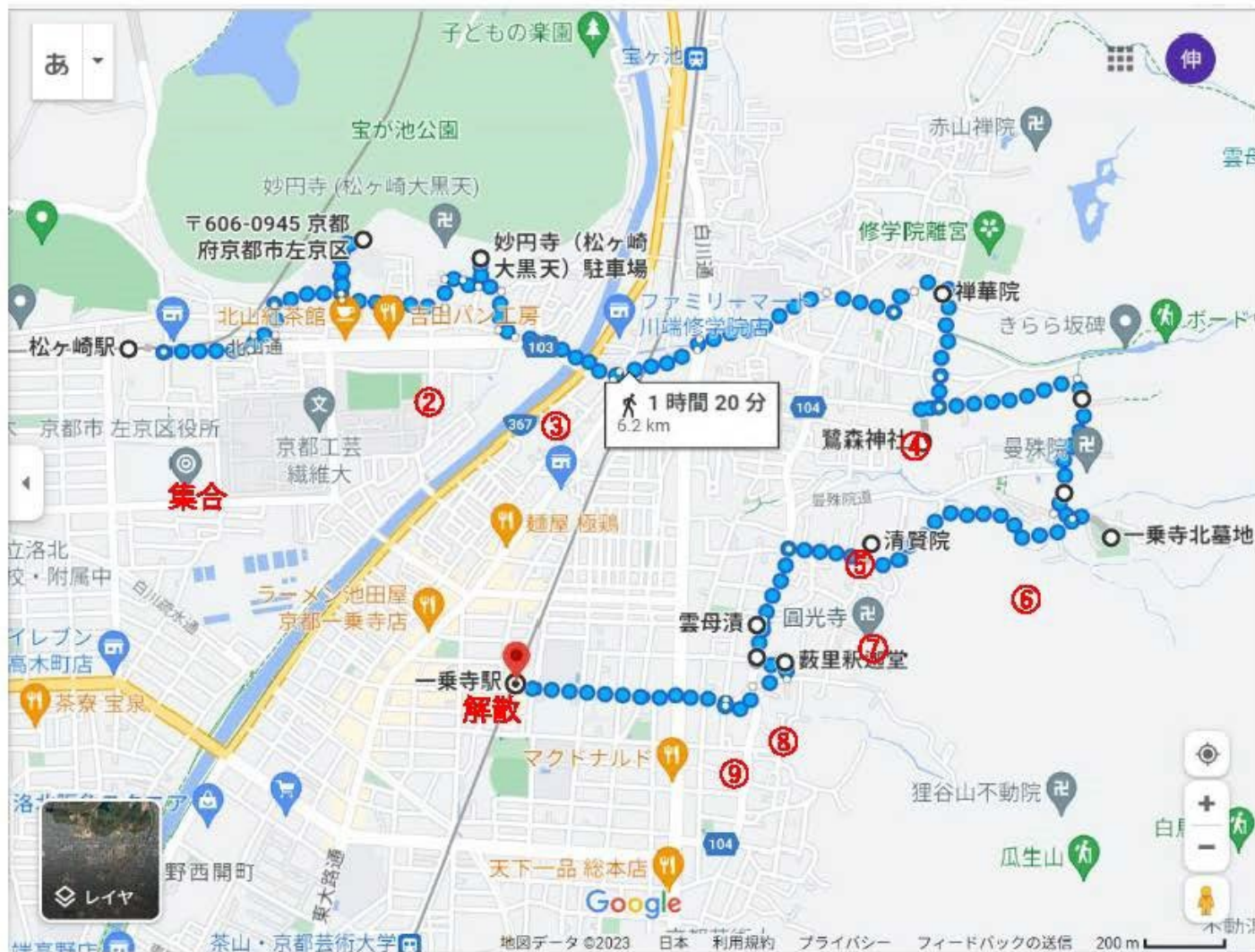


#### 1. 散策ルート（全行程約 6.2 km）

集合：京都市営地下鉄松ヶ崎駅

- ①京都市立松ヶ崎小学校
- ②桶泉寺
- ③妙円寺（トイレ有）
- ④禅華寺
- ⑤鷺ノ森神社（トイレ有）
- ⑥一乗寺北墓地
- ⑦清賢院
- ⑧一乗寺釈迦石仏（藪里釈迦堂）
- ⑨一乗寺下松（トイレ有）

解散：叡電一乗寺駅・市バス一乗寺下り松町



#### 2. 初めに

今回は松ヶ崎・修学院・一乗寺地区に伝わる石仏を中心に歴史散策を行いたいと思います。

平安時代の終わりごろ、釈迦が入滅して二千年経つと釈迦の教えが忘れ去られ、混乱の時代が来るといふ末法思想が流行します。正永七年（1052）がちょうどこの二千年目に当たりますが、当時の日本は貴族社会から院政へ移り変わる時期で、武士が台頭してきた時代でもあります。末法思想と現実の社会情勢の変化が結びつき、この考え方はますます広がりを見せました。現実の社会では救済されないと感じた人々は、死後の世界に救いを求めるようになり浄土信仰が広まるのです。

やがて、鎌倉時代になるとそれまでの貴族や武士のものであった仏教に時宗や浄土宗、浄土真宗など庶民にも受け入れられる新しい宗派が次々と誕生します。そして庶民に広がった仏教は新たな仏教芸術を生み出します。その一つが石仏です。石材は入手し易く安価であったため、これを利用した石仏が大量に作られます。耐久性のある石仏は道端など庶民の身近な場所に置かれ、信仰を集めることになったのです。松ヶ崎や修学院周辺にはそのころの優れた石仏が多く残されています。

#### 3. 散策ルートと史跡

##### ① 松ヶ崎廃寺

松ヶ崎小学校の地は平安時代中期に源保光が建立した松崎寺（円明寺・歓喜寺）と呼ばれる寺院がありました。

延暦寺の末寺でしたが、鎌倉時代に法華宗に改宗されました。天文法華の乱（延暦寺の僧徒が法華宗の信徒を襲撃した事件）で焼失しましたが、のちに再興され妙泉寺として明治初めまで残り、現在は本涌寺と合併し、涌泉寺となり北東側に移転しています。発掘調査で室町時代の石垣と平安時代後期の建物や庭園が見つかり、その一部が校舎の裏に移築保存されています。



発掘調査で見つかった庭石

同じく見つかった建物跡

##### ② 涌泉寺門前の二尊仏

向かって左側は花崗岩製の立像で、舟形の光背に如来像を厚肉彫にしたものです。右側は同じく花崗岩製の如来像ですが、下半身の状況が分かりません。いずれも風化が激しく詳細は不明ですが、室町時代のものと考えられます。



##### ③ 妙円寺と松ヶ崎二尊仏

妙円寺は日蓮宗の寺院で本尊は久遠実成本師釈迦尼仏と大黒天です。都七福神の一つである松ヶ崎大黒天として知られています。また、当地の裏山では五山送り火の際に松ヶ崎妙法のうち「法」の字が焚かれます。

**松ヶ崎二尊仏** 妙円寺の本堂の前に二体の石仏があります。元は北山通南側の民家の庭先にあったものですが宅地開発のためここに移されました。



妙円寺本堂（大黒天）

松ヶ崎二尊仏



向かって左は、如来立像で総高 190cm、幅100cm、厚さ 52 cmの板状花崗岩の表面に蓮華座に立つ如来像を半肉彫りにしたもので、右手を挙げて施無畏印、左手を下げて与願印を示しています。釈迦如来と推定され、室町時代前期のものとして推測されています。

右側は如来座像で総高 130cm、幅 90 cm、厚さ 30 cmの花崗岩の表面に等身大の如来坐像を厚肉彫りにしたものです。右手を胸前にあげて施無畏印、左手を膝前においています。弥勒仏で鎌倉時代後期のものと推測されています。

④ 禅華院の石仏群

禅華院の門を入った右側に多くの石仏が並んでいます。最も大きな石仏が、定印の阿弥陀如来像です。花崗岩製で総高 157 cm、二重光背に像高 145 cmの定印の阿弥陀如来座像を厚肉彫りにしたものです。

鎌倉時代後期のものと推測されています。右側には地藏菩薩像があります。二重光背で、右に短い柄の錫杖を持ち、左に宝珠を持つ地藏菩薩座像を厚肉彫りにしたもので、総高 165 cm、像高は 128 cmです。大型石仏の左側に 2 体の小型石仏が並んでいます元雲母坂のあったものがここに移されてきました。その内の一体の背後には平安時代の寛治 2 年(1125)年の刻銘があります。



雲母坂石仏

⑤ 鷺ノ森神社

貞観年間（859～877 年）の間の創建とされています。最初は比叡山麓に祀られていましたが、応仁の乱で罹災し、今の修学院離宮の山林中に移されましたが、さらに離宮造営の為、現在地に移りました。境内に「八重垣」と呼ばれる石があり、この石に触れ祈ると悪縁を絶ち思う人との良縁が得られると言われています。

⑥ 一乗寺北墓地弥勒石仏

花崗岩製の弥勒石仏で、高さ 175 cm、幅 120 cm、厚さ 70 cmの石材を舟形につくり、蓮華座に坐す座高 95 cmの如来を厚肉彫りにしています。右手は胸前に挙げた施無畏印で、左手は膝前に手のひらを上にして親指を捻じています。鎌倉時代のものと推測されています。



⑦ 清賢院の地藏石仏

花崗岩製、厚肉彫りの地藏石仏で舟形光背を持ち、総高 200 cm、幅 100 cm、像高 160cmです。左手は如意宝珠を捧げ、右手は錫杖を持たず下に下げて与願印を示しています。この形式は、古式地藏と呼ばれるもので平安時代の形式を残したものです。鎌倉時代のものと推測されています。

⑧ 一乗寺釈迦石仏（夜泣き地藏 藪里釈迦堂）

仏像研究家の太田古朴氏の調査によって奈良時代（天平時代後期）のものと考えられた石仏です。花崗岩製で高さ約 200 cmの石材を舟形光背形にして、像高約 150 cmの如来立像を厚肉彫りにしたもので、現在は絵の具で彩色されています。手は釈迦の降魔成道の触地印を示したもので、釈迦如来と推測されています。



⑨ 一乗寺下松

平安時代から近世まで、近江から京へ通じる交通の要衝にあり、旅人の目印として植え継がれてきた松で、現在は 4 代目です。かつてこの地にあった一乗寺にちなんで名付けられています。江戸時代初期、宮本武蔵が吉岡一門と決闘を行った場所ともいわれています。

..... MEMO .....

Handwriting practice lines consisting of multiple horizontal lines for text entry.